

平成26年度第1回鎌ケ谷市子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成26年5月22日(木) 13:30～15:45
場 所 鎌ケ谷市役所 本庁舎6階第1・第2委員会室
出席委員 山本幸子会長、西智子副会長、加郷由里子委員、長谷川美樹委員
皆川清子委員、石神市太郎委員、長谷川その委員、榎本美紅委員
鈴木朗子委員、中井努委員
事務局 望月健康福祉部長、斉藤健康福祉部次長(こども課長)、
鈴木保育支援室長、三橋子育て総合相談室長、菅井健康増進課長、
大野こども支援室長、
保育支援室：星主査、安田主事
子育て総合相談室：岸主事
健康増進課：舘岡主査
こども支援室：小笠原こども支援室長補佐、乗田主任主事
記 録 乗田
傍 聴 者 1人

議 題

- (1) 鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(案)について
- (2) 鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画体系案について
- (3) 地域子ども・子育て支援事業の概要について
- (4) 鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画における数値目標について
- (5) 委員提案について
- (6) その他

会 議 内 容

1 議 題

(1) 鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(案)について
～事務局より資料1に基づき説明～

(2) 鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画体系案について
～事務局より資料2に基づき説明～

委 員 障がいやハンディキャップをもった子どもへの対応として、人的な手当てや補助などについても、理念に謳ってほしい。すべての子どもたちを大事にするためにもぜひお願いしたい。

事務局 ハンディキャップをもった子どもも含めて考えてまいります。

(3) 地域子ども・子育て支援事業の概要について

～事務局より資料3、資料4に基づき説明～

委員 地域子ども・子育て支援事業の13事業については、すべて今後進めていくのか。

事務局 この会議において、各事業について必要かどうかを議論していただきたいと思っております。基本的には、希望があればすべて進めていくことを想定しております。

委員 横浜市で行っている保育コンシェルジュは、保育に関する情報提供のみであるが、島田市や千葉市（中央区、稲毛区）のように育児に関するすべての情報を一本化した取り組みを行っているが、鎌ヶ谷市においても、後者のような制度を前向きに検討してもらいたい。

事務局 どういったサービスを提供するのか、何か所に設置するのかそういったことも併せてこの会議において検討していただきたい。

委員 病児保育事業がない現状であるが今後どうする予定か。

事務局 病児保育を行ってくれる施設・病院があるかということも含めて検討する必要があります。病児保育事業が必要かどうかは、この会議で検討していただきたいと考えております。

委員 例えば、フルタイムで働く母親は、子どもの病気で1週間仕事を休むことは難しくなるので、病児保育が必要になると思います。

委員 提示されている事業計画は、親の視点に立ったものばかりである。子どもを預けることがすべてではなく、親がそばにいたことが子どもにとっては大事である。預ける施設の整備も大事であるが、親が仕事を休んだ時の生活費の補助などを検討した方がよいのではないかと。先ほど意見がありましたコンシェルジュも母親が子どもたちをすくすく育てられるようなシステムが大事であると考えている。

委員 同意見である。病気の時だけは親に看てほしい。子どもがよりよく育つためには親の責任というのでも考えていかなければならない。その上で援助などの支援を考えなければならぬと思う。

委員 フルタイムの母親のすべてが預けたくて預けているわけではないと思う。生活費のフォローや、例えば鎌ヶ谷の会社が母親にやさしい制度などを設けてほしい。

委員 生活を大事にする視点が大事であると思う。今回の子ども子育て支援制度は、母親だけではなく保護者が第一義的にということは載っていると思う。

働いている母親にだけ視点がいつてしまうと、仕事に子育てに頑張っている母親を責めることになってしまう。また、3歳未満児の7割が家庭で育てている中で、子どものために1対1の子育てに追い詰められているという状況の両方を考えて支援策を考えていかなければならない。

社会で子どもを育てる制度を鎌ヶ谷でも市としてアピールしていかなければならないと思う。

実際に困っている人たちが使いやすい制度を考えていかなければならないと思う。

委員 保護者が職場に行って、事情を話して戻ってくるまでの間は保育園でみている。

委員 体調不良児対応型の制度を制度として位置づけられると、園の努力だけではなく制度として保証していくようになると思う。

委員 病後児保育の預けられる時間が短いため、利用しにくい。

委員 横浜市で知り合いが病後児保育を始めたので視察したことがある。横浜市は、事業者への手当が厚いからできていると思う。やるからには覚悟を持って、手当てや人的配置も含めて制度を検討してほしい。

会長 考えていかなければならないことだと思う。私たちもいい知恵を出し合って、現実になるような方策を考えていきたいと思う。

事務局 保護者目線だけではなく子どもの視点、社会のシステムの視点や手当て等の様々な視点を盛り込んだ計画を策定していきたいと考えています。

委員 保育コンシェルジュのことが出ているが、主任児童員は、0歳から18歳までの児童の健全な育成に関わっている。その中で子育てサポーターという役割もしている。地域の母親たちからいろいろな相談を受けることもあり、必要に応じて行政や専門の人につないだりということをしている。各地域にいるので、活用していただければと思う。

委員 こういった情報を知りえるものがほしいのだと思う。

委員 引っ越してきた母親は、まず市役所に相談に行く。相談に行く場所がなければ、家に籠ってしまう。民間のコンシェルジュで保育や子育ての情報の提案を行ったり、たくさん子育てをサポートしてる人たちを紹介する立場で、それを情報の一本化として、鎌ヶ谷市は、小さい市なのでアットホームな子育て支援ができたらと思う。

事務局 市は情報発信が、苦手だと思っている。改善していかなければならないと思っています。今回、計画を策定するにあたって、情報発信が大事であると考えています。どのような情報発信の方法が効果的なのか、この会議で検討してほしいと考えています。

乳児訪問や母子手帳を渡す際には、子育て・子育て応援ガイドブックを直接手渡していますし、子育て・子育て応援ホームページも昨年リニューアルして、利用しやすいものにしました。もっと多くの市民に周知できるようにしていきたいと思っています。

会長 多くの方が子育て支援に関わっているので、大いに活用してほしいと思います。

事務局 統一的な発信ができていないのが現状です。こども課ということで一本化されていますので、情報の発信をしていきたいと考えております。

(4) 鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画における数値目標について

～事務局より資料5に基づき説明～

委員 ファミリーサポート事業と養育支援訪問事業の中間の事業があるといいと思う。家に来てくれて、子育てのサポートや話し相手になってくれるだけでもほっとするので家庭に訪問してくれるといいと思う。

委員 家庭に訪問する事業は、社会福祉協議会でふれあいサービスという事業を1時間700円で行っている。

事務局 こども課の子育て支援センターで発行している子育て・子育て応援ガイドブックを配っており、ふれあいサービスについて掲載しています。また、相談に来られた方にも案内をしています。

委員 こども課に相談に行ったときにファミリーサポート事業の説明がなく、ふれあいサービスのような事業を教えてもらえなかった。どこに聞いたらいいかわからなくて、こども課に相談した。

事務局 こども課の各職員にもコンシェルジュのような意識をもって対応できるように徹底していきたいと考えている。

会長 ボランティアセンターは、子育て支援だけではなく家事の手伝いなども行っている。困ったことがあれば相談してもらいたい。

委員 子どものことは、こども課かなと考えてしまう。

会長 行政の手が届かないところをボランティアセンターは担っている。困ったなと思ったことがあったら、社会福祉協議会まで、問い合わせただければと思う。

6事業については、暫定的ではありますが、今後五年間の数値目標とさせていただきます、次回以降の会議においては、達成するための手段やサービスの向上策について審議していきたいと思う。

(5) 委員提案について

～委員より資料6に基づき説明～

～事務局より補足説明～

会長 すぐに市の事業とし実施するのは難しいと思いますが、この会議で継続審議を行っていただければと思います。

委員 よい提案だと思う。利便性や若い世代には受け入れられると思う。子どもが主役であること、送り迎えが保育の現場を把握し質を保っている。親子でできる子どもの育ちを確保することを検討しながら具体化できればよいと思う。

3 報告事項

- (1) 子ども・子育て支援新制度に伴うパブリックコメント（意見募集）について
～事務局より資料7-1、資料7-2、資料7-3、資料7-4に基づき説明～

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成26年6月18日

氏 名 皆川 清子

氏 名 石神 市太郎